

# たげな新聞

2016年3月 春号(17)

制作：たげな新聞プロジェクト  
メンバー100名+15団体

mail : takenoura\_news@yahoo.co.jp

あの日から5年です。

自然の猛威により犠牲になられた方々への想いは今も変わらず、心から鎮魂の祈りを捧げます。

目に見えるものは大きく変わっていますが、  
変わらない「心」「芯」は、いつまでも持ち続けたいと思っています。

## 春祈禱 2016年1月3日 晴れ

番屋で春祈禱を始めて4度目の今年。

あの人がだんだん…(いるかなあ…)と、慣れ親しんだ顔を探すたげなの人々の姿がありました。

今は、みんながたげなに集う数少ない大切な日となっています。

獅子を見て、みんなの顔を見て、いない顔をちょっと心配しながら、1年が始まったのではないのでしょうか。



写真: straight. photoworks

自然の力は強大で、

変わってしまったものは確かにあるけれど、竹浦は今でも、

獅子のまわりに人が集い、その魂は変わっていません。

住宅が続々と建設されるだろうこの1~2年。

従来の春祈禱は獅子が1軒1軒を巡る形式でしたが、

どこで生活していても、竹浦の春祈禱を楽しみにしている人達も

気兼ねなく集まれる春祈禱とは、どのような形だろう。

まあ(と)いえず、

なんだい(と)いえず(色々)考えなくていいから、

次も、竹浦に集まらん。(集まろう)

あと300日程度、ずいぶん気が早いですが来年の春祈禱が楽しみです。



写真: straight. photoworks

「やーれやれ ががさまやー ががさまやー  
安芸の方からおだんぶつ二八〇〇人ばい よーいと  
春祈禱にまいりましたー。」

神事である春祈禱はこの唄から始まり、

笛と太鼓の音に合わせて、

獅子が家中を舞うことで悪魔を祓い、

一年の幸福を願うものです。

今年も、たげなの人はもちろん、

震災をきっかけに出会えた多くの人とともに、

肅々と かつ にぎやかに

春祈禱を執り行うことができました。

震災後、伝統の形式にとられることなくその形を

変化させて春祈禱を継続している竹浦実業団。

参加する人、見てくれる人がいるからこそ、

今年から来年へと伝統を継承することができます。

写真: straight. photoworks



写真：阿部貞さん

漁業作業場にも獅子がきました。

いけすを見ながら

海上安全・大漁祈願・商売繁盛

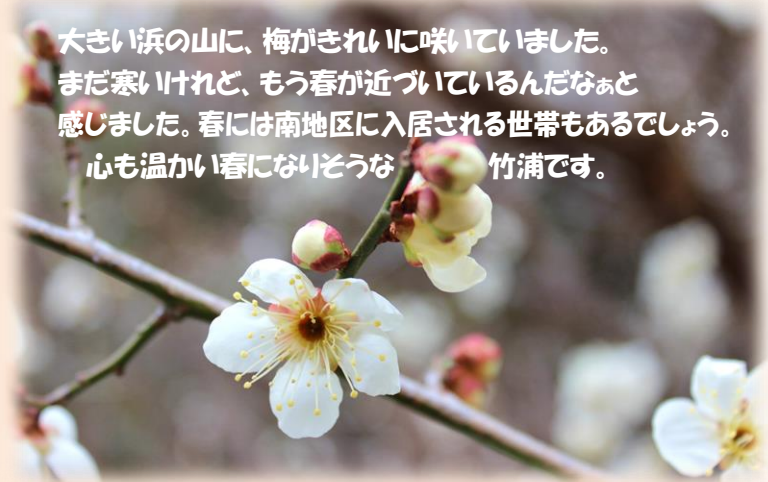


# 高台移転 (南地区)

昨年11月に造成完了、宅地が引き渡しとなり、  
続々と住宅が建設中の竹満南地区です。



大きい浜の山に、梅がきれいに咲いていました。  
まだ寒いけれど、もう春が近づいているんだなあと  
感じました。春には南地区に入居される世帯もあるでしょう。  
心も温かい春になりそうな竹満です。

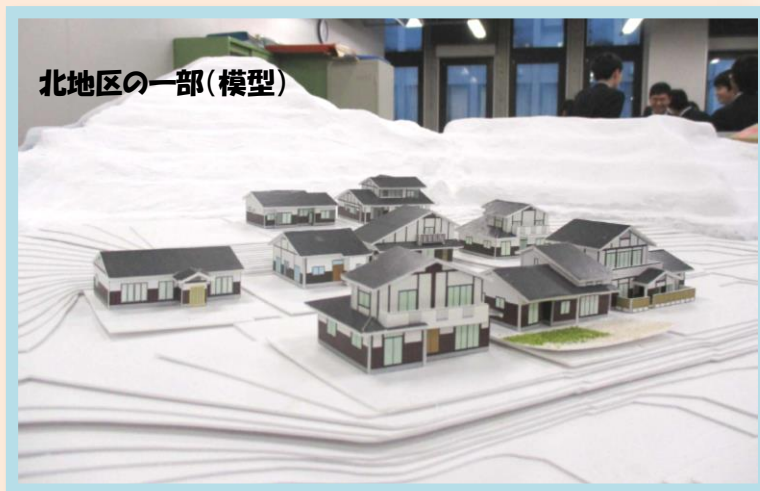


# 高台移転 (北地区) : 石巻工業高校が模型製作で協力してくれました。

今年秋頃の宅地引き渡しを前に、自立再建世帯の住宅設計が順調に進んでいますが、正直なところ、イメージがわからない…。そんな住民の気持ちを察してくださった宮城県建築士会の砂金会長より依頼された石巻工業高校2年3年の学生さんたち10名が、新たに再建される竹満北地区の模型を作ってくださいました。



北地区は、  
このあたりに災害公営住宅が建設される予定です。



建築部部長で2年の北川雄大君(17)は  
「住民の皆さんの気持ちを考えて作った。地形の模型は  
難しかったが、こつこつ作業してきて良かった」と  
話してくれたそうです。

グラフィックに慣れている若い人達ならまだしも、  
年齢が高くなると、立体的にイメージすること、色彩感覚、  
空間をとらえること等は、そう簡単なことではありません。  
学生さん達に製作していただいた模型を見ていると、  
家だけではなく、海、山、居住地それぞれの位置関係などを、  
感覚としてとらえることができ、ワクワク感も生まれました。

白い所が山ですよ。緑色に変換して想像してみてください。ほら、見えてきた！

# ご報告

多くの方からご支援をうけ、これまで継続できている「たげな新聞」の活動が、2月1日 河北新報 朝刊1面 河北春秋コラムに掲載されました。

記事を目にしてくださった方々からあたたかいお言葉を頂戴し、本当にうれしく思いました。ありがとうございました。

たげな新聞を支えてくださっている皆さん、読んでくださっている皆さん、これからもよろしくお願ひ致します。